

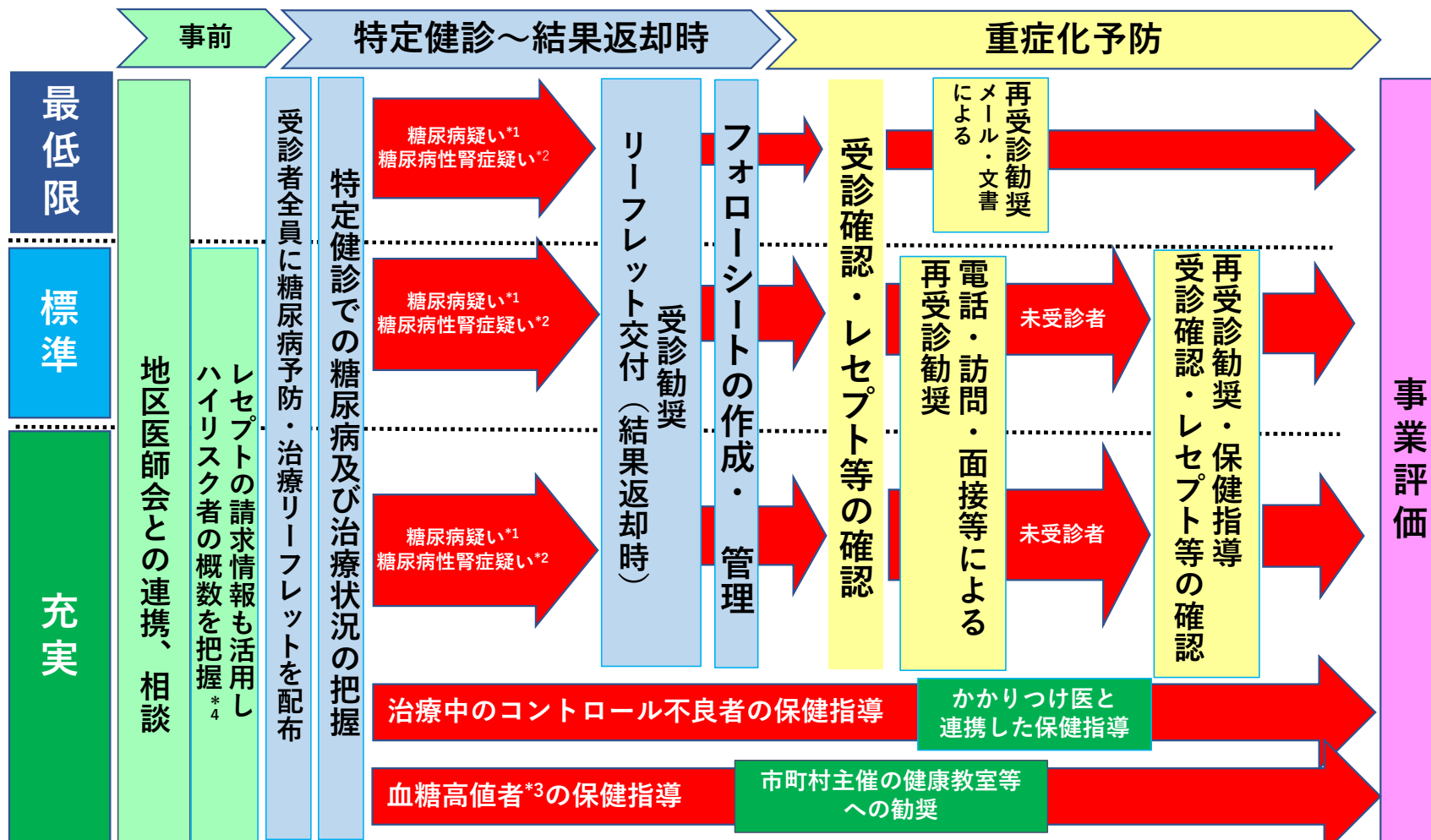
行動変容推進事業フォローアップ研修会 アンケート調査結果報告

【糖尿病対策】

大阪健康安全基盤研究所 公衆衛生部 疫学解析研究課

吉田 知克

糖尿病対策 (糖尿病性腎症重症化予防を含む)



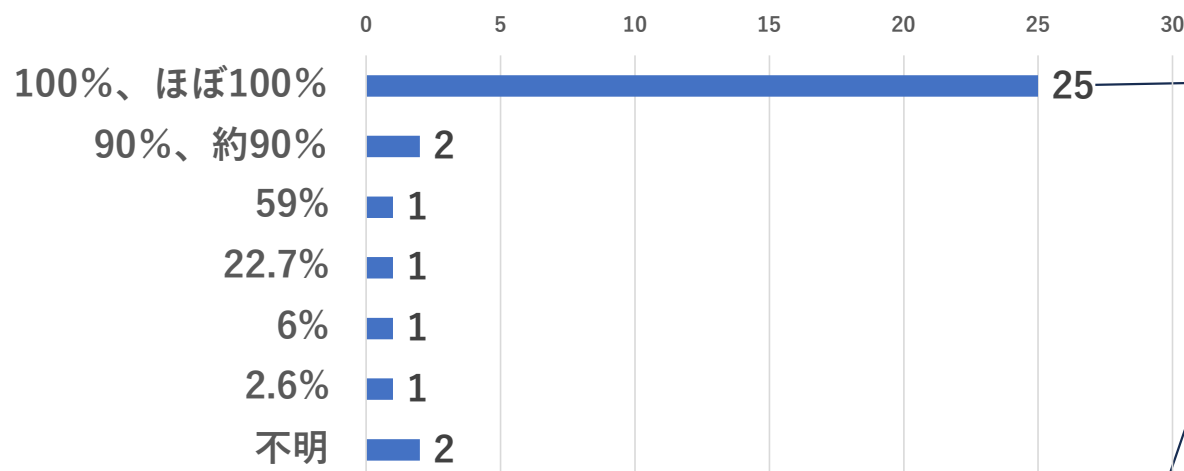
*1 糖尿病の疑い HbA1c6.5%以上 又は、空腹時血糖126mg/ml以上 *2 糖尿病性腎症疑い 糖尿病の疑いかつ尿蛋白(±)またはeGFR60未満

*3血糖高値者 HbA1c6.0～6.5%未満 *4 ハイリスク者 糖尿病予備群、未治療者、糖尿病性腎症対象者

糖尿病（疑い）を対象とした 未治療者への受診勧奨について

- 41件の回答の内33件が、「はい」

肥満のあるHbA1c 6.5%以上の未治療者への
受診勧奨「はい」33件の内訳



100%が多く、肥満がなくても
も勧奨することもみられる
(内3件)。

- 医師会との協力・連携（受診勧奨）
41件の回答の内24件が、「はい」

協力の内容は

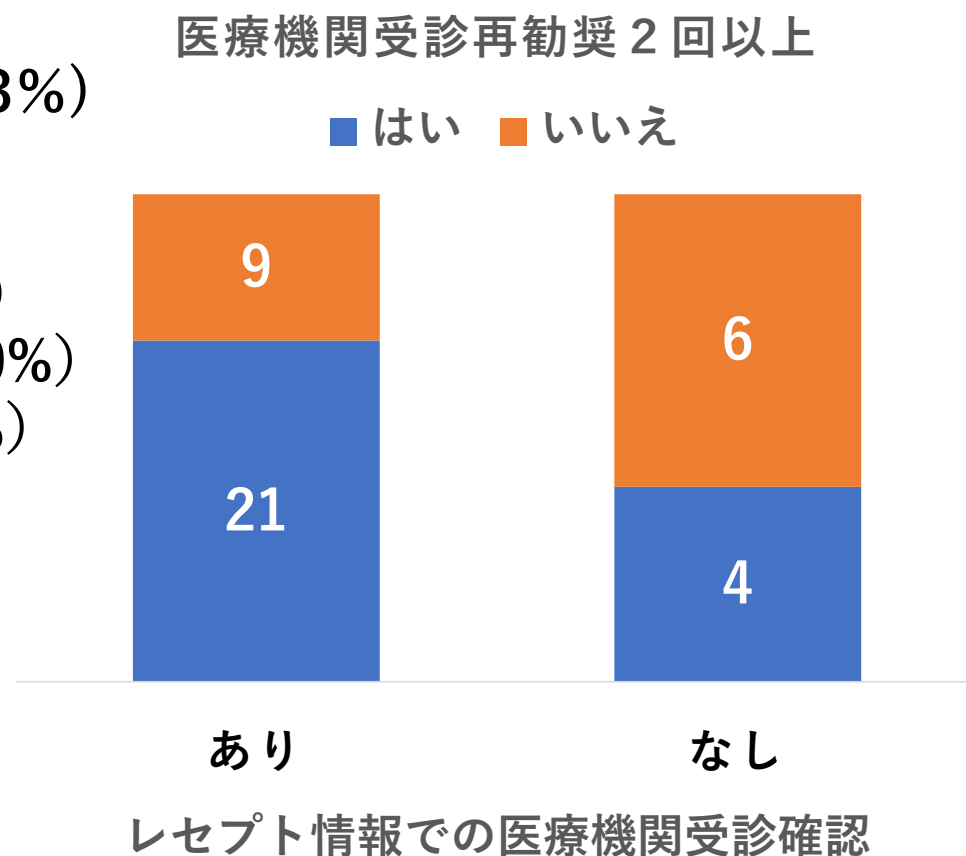
- 会議等での糖尿病性腎症重症化
予防事業に関する相談
- 連絡票での患者の情報共有
- リーフレット作成等の役割分担

受診勧奨後の医療機関受診確認について

- レセプト情報で受診確認 30/41 (73%)

医療機関再勧奨 2 回以上 25/41 (61%)

- レセプト情報の確認あり 21/30 (70%)
- レセプト情報の確認なし 4/10 (40%)



糖尿病（疑い）を対象とした 未治療者への（特定）保健指導について

- 肥満のあるHbA1c 5.6%以上の未治療者への保健指導

「はい」 38/41 (93%)

- 医師会との協力・連携

「はい」 25/41 (61%)

- 協力の内容は
- 会議で糖尿病性腎症予防事業等の情報共有
- 糖尿病連携手帳を使った連絡
- 専門医療機関への紹介
- 特定保健指導の委託等

その他

- 治療者への取組32/41 (78%)

- コントロール不良者への個別指導
- 市独自の二次検査（頸部血管エコー、尿検査（尿Alb, Na, K, Cr））、スマートウォッチを利用した保健指導等
- 糖尿病性腎症重症化予防事業の案内
- 専門医療機関の紹介

- 効果的な取り組み19/41 (46%)

効果的な取り組みとして、

- 糖尿病性腎症重症化予防事業
- 糖尿病（生活習慣病）予防教室
- コントロール不良者・中断者への保健指導
- 市独自の二次検査*
- * 頸部血管エコー、尿検査（尿Alb、Na、K、Cr）、持続的グルコース測定等

- KDBの利用38/41 (93%)

利用目的は

- 対象者抽出
- 受診・投薬確認
- 経年傾向把握
- データヘルス計画作成等

糖尿病性腎症重症化予防事業の現状

- 保健指導事業の目的は、「病気にならないように生活習慣を整える」「有病者を医療機関につなげる」。一方、糖尿病の診療目的は、「合併症の発症・再発の予防」である。
- 糖尿病性腎症重症化予防事業は「合併症の発症・再発の予防」も大切な事業内容となっており、診療目的と合致する部分もあるため、医師会や医療機関とのより密接な連携が必要となる。
- 地域連携での相談や情報のやりとりは重要だが、十分に行われているとはまだ言い難い。

最近の臨床研究の視点から

- 腎不全患者では心不全リスクが高まり、糖尿病があるだけで心不全はステージAに該当する。
- 糖尿病では尿Albが出る糖尿病性腎症だけでなく、細かい動脈が硬くなり詰まることによって発症する、糖尿病性腎臓病（Diabetic Kidney Disease；DKD）がある。DKDでは尿Albが上がらなくても、腎機能低下が進行する。

血圧と腎血流量を正常に保ち、心不全とDKDの増悪を防ぐために、適切な降圧薬、血糖降下薬、生活習慣の改善、リハビリテーション等の、多職種が連携した治療計画が求められる。

これからの展望

- 糖尿病性腎症重症化予防事業は従来の保健指導事業の範囲を広げ、合併症の発症・再発の予防もその対象となっている。また、近年新しい薬が出ており糖尿病の治療も複雑化している。したがって、当事業を推進するにあたって、より密接な医師会や医療機関との連携が必要となる。効率的かつ効果的に事業を運営するにあたって、必要な連携に際し作業手順を簡素化し時間短縮につなげ、業務負担を軽減するITシステムの構築が望まれる。具体的には検査項目を標準化し、地域の連携体制のなかで、保険者、診療所、専門病院が共同利用できる電子カルテを用いることで、相談や紹介に際して情報共有の効率化を図る。また治療やIT技術に関する生涯学習への支援が挙げられる。